

Q：読書指導について、子どもの学年に応じて読書レベルを上げていきたいのですが、高学年でも中学年以下のレベルの本を選んでくる子にどのような指導をしていいか悩んでいます。

A：千葉県では「読書県『ちば』の推進」が掲げられ、学習指導要領では読書活動の充実が示されるなど、子どもたちの読書生活の充実が、大きく注目されています。読書指導のポイントとしては、学校図書館の活用を中心とした学校全体の取り組みと、国語の授業を中心とした教科の学習場面での取り組みがあります。

＜学校全体の取り組みとして＞

①日常生活の場面での読書生活の基礎作りを心がけましょう

子どもたちがいつでも本に触れ合えるよう、教室の中に様々な本を置いておきます。この時には、学習に関連した本、新刊の本、担任が読ませたい本など幅広く、そして学級の数に対して十分な冊数を用意したいものです。また、担任が朝読書や朝の会などの時間を利用して、読み聞かせを日常的に行っていくことも効果的です。

②学校図書館・図書委員会活動の充実をはかりましょう

蔵書の充実や本の配置は非常に大切です。それ以外に、学校図書館や図書委員会を中心とした読書の推奨活動を充実させていくことが効果的です。図書委員会の児童による「読み聞かせ」や「ブックトーク」、「読書郵便」や「本の紹介コーナー」の設置、他にも本の貸し出しや学校図書館の利用を促す活動など、学校全体に読書に取り組もうとする雰囲気醸成していくことがとても有効です。

＜国語科の授業を中心とした取り組みとして＞

国語の教科書を見ると、単元の終わりや巻末にその単元に関連した図書の紹介が非常に充実していることが分かります。国語の学習においては一つの教材だけを詳しく読みながら学習を進めるのではなく、複数の本や文章を様々な方法で関連づけて取り上げ、比べて読んだり重ねて読んだりする多読につなげることが求められています。

①単元学習の中に読書活動を意図的に組み込みましょう

かつては、学習が終わると発展読書として読書活動を位置付けることが多くみられました。現在は、単元を貫く言語活動（その単元で中心となる言語活動）の特徴をふまえて、単元学習を進めながら関連する本を読み進める「並行読書」や、学習の前に関連図書を読み進めておく「事前読書」も推奨されています。

②読書そのものを促す言語活動を取り入れましょう

学習指導要領の中に示された言語活動の中には、読書そのものを促す活動があります。単元のねらいともあわせて、これらの言語活動を効果的に位置付けていきましょう。例えば、「ブックトーク」や「読書案内」「新刊紹介」などの言語活動では、友だちに本の紹介や説明をしなければなりませんから、必然的に学年相応の本を選ぶこととなります。また、読書への意欲を高めるためには、「絵本の読み聞かせ」の活動を取り入れて、自由に好きな本に触れさせることも効果的です。